

■カタールサイエンスキャンパス(Qatar Science Campus : QSC)とは？

東北大学大学院工学研究科では、カタール国の「カタールフレンド基金」の支援を受けて、宮城県の小学生、中学生、高校生を対象とした「カタールサイエンスキャンパス」を実施いたします。本プロジェクトでは、宮城県の小学生、中学生、高校生を対象に、専用施設「カタールサイエンスキャンパスホール」において、学校では体験できない科学実験体験やものづくり体験、世界最先端研究に触れる機会を多数提供するプロジェクトです。

被災地域の子どもたちの科学やものづくりへの興味のきっかけを作り、将来の新産業創出を担う技術者、科学者を養成すること、地域の大学や地域企業への訪問を通じて、子どもたちの地域への理解と愛着を深め、地域復興を担う人材を育成することを目的としています。

■カタールフレンド基金(Qatar Friendship Fund)とは？

カタールフレンド基金は、2012年1月に設立された、東日本大震災の被災地復興を支援するカタール国の基金です。カタール国の前首長のシェイク・ハマド・ビン・ハリーファ・アール・サーニ殿下が設立し、新首長タミム・ビン・ハマド・アール＝サーニー殿下の指揮の下、ハリッド・ビン・モハメド・アルアティーヤ カタール国外務大臣の主導で活動しています。議長はユセフ・モハメド・ビラル駐日カタール国特命全権大使が務めており、親善大使には俳優の別所哲也氏が就任しています。2012年1月から2014年12月の約3年間にわたり、「子どもたちの教育」、「健康」、「水産業」の3分野を支援するプロジェクトを対象に、迅速かつ効率的に運営されています。支援金額は、総額で1億米ドルの活動資金の助成を行う予定です。東日本大震災の復興に向けた歩みを、被災地と共に手を携えながら進めていく友でありたい、というカタール国の願いと意志が込められています。

公式サイト ([http:// www. qatarfriendshipfund.org/](http://www.qatarfriendshipfund.org/))

■科学体験教室 “ものづくり講座”

① ～ソニー・サイエンスプログラム 光通信機手づくり実験～

- 参加者一人ひとりが光で音楽を送受信できる光通信の仕組みを学べる発信機と受信機のセットを製作します。銅版を切って基盤を作り、部品を実装して半田付けし、組上げます。

製作した送受信機を利用した実験では、光をさえぎったりLED2種・LDを換えたりしながら、光通信の仕組みを理解します。光通信や電子回路のしくみ、眼に見えない赤外線通信や光の屈折特性、LEDとレーザー光の違いが学べ、最後にはCDやDVD等、光ディスクへの応用へと繋がる奥深い内容です。

- 参加者は、中学生・高校生女子48名（午前・午後各回24名）
- 協力 RESTART JAPAN(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ソニー(株)協働プロジェクト)

② ～ちくちく縫ってLEDが光るかわいい小物づくり～

- 針と糸を使った手芸感覚で、電子工作が体験できる!?本プログラムでは導電性(電気を通す素材)の糸をちくちく縫うことでLEDがぴかぴか光るように配線し、布やいろいろなデコレーション素材を使って、可愛い自分だけのオリジナル小物作りを行います。

東北大学の理系女子大学院生からなる『サイエンス・エンジェル』と、東北大学工学系女性研究者育成支援推進室(ALicE)の工学女子が、優しく製作をサポートします。

- 参加者は、小学生以上48名(午前・午後各回24名)
- 協力 東北大学工学系女性研究者育成支援推進室(ALicE)

■青葉山キャンパス 工学部管理棟マップ

